

## 第7回下野市行政改革推進委員会 会議録

日 時	平成28年1月21日（木） 午後2時～3時30分
場 所	下野市役所国分寺庁舎 304会議室
出席委員	杉原弘修会長、飯島陽子委員、関口博之委員、飯野洋委員、水上美紀委員、大木徳委員、園部小由利委員、中林佳子委員
欠席委員	小久保武委員、長光博委員
庁 内	広瀬市長、板橋副市長、池澤教育長、落合総合政策部長、山中総務部長、渡辺市民生活部長、大橋建設水道部長、野澤教育次長、布袋田会計管理者、高德農政課長、黒川議事課長
事務局	星野総合政策課長、小谷野主幹兼課長補佐、坂巻副主幹、舘野主事
傍 聴 者	なし

### ○次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事  
(1) 会議録署名人の指名  
(2) 平成27年度下野市行政評価市民評価報告書（案）の確定
- 4 平成27年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
- 5 市長等との意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

### ○開会

（事務局） 第7回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

### ○あいさつ

（杉原会長） みなさんこんにちは。本日もよろしく申し上げます。

### ○議事

#### （1）会議録署名人の指名

（杉原会長） 会議録署名委員を指名します。名簿順で、飯野委員と大木委員にお願いします。

#### （2）平成27年度下野市行政評価市民評価報告書（案）の確定

（杉原会長） 前回の委員会で協議決定した内容を基に報告書の素案を作成し、委員の皆様には事前にご確認いただいたかと思えます。訂正の報告等について事務局から説明をお願いします。

（事務局） 平成27年度下野市行政評価市民評価報告書（案）、修正内容一覧に基づき説明

- ・事前に配布しました「行政評価市民評価報告書（案）修正内容一覧」をご覧ください。

- ・市民評価報告書（案）を委員の皆様にご確認いただきましたところ、3点の修正意見がございましたので、杉原会長と事務局で対応を協議しました結果を表にまとめました。上から順に説明いたします。
- ・まず、10ページ商工業振興事業の評価内容に関する修正意見です。評価内容の最後の文言「統一に向けた取組が必要である」という箇所を、「1日も早く実現すべきである」というより強い表現に変更すべきであるのご意見でした。
- ・こちらのご意見につきましては、「統一に向けた積極的な取組が必要である」とすることで対応させていただきました。理由としては、委員会においては、商工会の統一が課題であり、「積極的」に取り組むべきであるという姿勢は確認できているが、「1日も早く」と表現する程の意思統一は行われていないためです。
- ・また、積極的という文言は、委員会の強い姿勢を示す上で、全委員が納得しうる有効な表現であると考えます。
- ・続いて、個別意見の修正について、12ページ、22ページの2点ございます。
- ・こちらは、一部文言の修正はいたしました。申出のあった内容で修正をしております。
- ・以上の修正内容を反映しまして、本日の会議資料「平成27年度下野市行政評価市民評価報告書（案）」を配布させていただいております。
- ・本日は報告書（案）の確定ということで、ご協議いただければと思います。

（杉原会長） 事務局から説明がありました。各委員より意見等がありましたらお願いします。意見等がなければ、報告書案を決定としてよろしいでしょうか。

（委員） <異議なし>

（杉原会長） それでは、報告書を決定とし、市長へ提出することとします。

[休憩]

## ○平成27年度下野市行政評価市民評価報告書の提出

（杉原会長） 市民評価報告書の提出になります。一度進行を事務局に戻させていただきますのでよろしくお願いします。

（事務局） 杉原会長から市長への報告書の提出になります。杉原会長、よろしくお願いいたします。

（杉原会長） 下野市行政改革推進委員会において審議を重ね、平成27年度下野市行政評価市民評価報告書を作成しましたので提出いたします。

（広瀬市長） ありがとうございます。

（総合政策課長） 市長等との意見交換となりますが、はじめに広瀬市長からごあいさつを申し上げます。

（広瀬市長） 市民評価においては、10月の評価対象事業の選定に始まり、各事業のヒアリング、その後の取りまとめの委員会協議など、各委員にはお忙しい中、委員会に参加され、市が行う事業について大いに議論していただいたことに感謝申し上げます。167事業の中から10事業を選定し、市の推進方針についてご協議いただき、本日、報告書を提出いただきましたが、10事業のうち8事業は「妥当である」、2事業は「おおむね妥当である」という評価をいただきました。評価内容の詳細につきましては、再度確認させ

ていただきますが、さまざまな角度からご意見をいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。下野市は合併して10年という節目の年を迎えております。10年間で、様々な物事が形を作り、また、市民の皆様の要望についても、合併当初の町時代の延長としての要望から市としての要望に変わってきたという印象を受けております。執行部においては、市民の皆様がどのような要望をもっているのか、また、栃木県における下野市の位置づけ、周辺自治体との連携など、様々な状況を踏まえて、市としてどうあるべきかを調査研究し、事業を展開しているところであります。それぞれの事業について、このような委員会を通じて市民の皆様からご意見をいただく事によって、事業展開に関する指針が明確となり、さらなる飛躍に繋がることと思っております。評価や意見をいただくこととなりますと、対立するというイメージを持つ方もいらっしゃると思いますが、第二次下野市総合計画においては、市民と共に市を築いていくということを掲げる予定となっておりますので、委員の皆様と共に市の方向性を議論してまいりたいと考えています。私たちが住んで良かったと思えるまちづくりは、将来子ども達も下野市で住んでいて良かったと思えるまちに繋がりますので、そのような施策を展開していきたいと思っております。本日いただきましたご意見を踏まえ、さらなる市の飛躍に繋げるため、より良い施策の展開を図っていきたくて思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## ○市長等との意見交換

(総合政策課長) 意見交換となりますが、意見交換の進行については杉原会長にお任せいたします。

(杉原会長) 意見交換の場は委員のみなさん何度も経験されていますので、市民評価報告書以外のことでもお気づきの点がありましたら、積極的に発言していただきたいと思っております。委員のみなさんご意見等いかがでしょうか。

(大木委員) 市が策定した下野市人口ビジョン及び下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略においては、推計では2060年に今より3割人口が減少するところを、様々な施策の展開によって1割の減少に抑えたとされています。そして、基本目標において「東京圏からの新しい人の流れをつくる」が掲げられておりますが、転入者数、観光入込客数の増加のため、どのような施策を展開していく予定ですか。

(広瀬市長) 住みやすい地域であるということを積極的に情報発信していくことが、人口増加のための第一歩だと考えます。下野市が人口増加のために取り組んでいく施策については、住んでいる人の幸福感の向上や出生率を上昇させる施策だけではなく、定住人口と交流人口を増やすための施策の展開も始めています。定住促進の取組は、地方創生と下野市が目指す将来像の両方に繋がりますので、工業団地に企業を誘致するのと同様に、市に住民を誘致していかなければなりません。東京圏からの転入者を増やすために具体的にどうしたら良いかということですが、まずは下野市を知ってもらうため、積極的にシティプロモーションを推進することとしております。先日

は、東京圏でシティプロモーション課長の P e p p e r を活用したプロモーションを実施しました。また、去年は、東京圏の方などを対象として、下野市の歴史文化施設や道の駅しもつけ、区画整理地内である仁良川を見学していただくツアーを開催しました。農政課の分野ですと、これまでは下野市で栽培した質の良い農産物を東京圏の飲食店に卸していましたが、さらに質の良い農作物生産のため、東京の一流レストランの料理人との交流事業を行い、また、料理人が下野市に移住する施策も展開していきたいと考えています。これを実施すれば人口の流出が抑えられるという答えは存在しないのかもしれませんが、中学生までのアンケートの結果では、下野市に住み続けたいと思う割合が高くなっていますので、その気持ちを大切にしていきたいと思います。また、進学等で子ども達が市外の地域を見た上でも、やっぱり下野市に住みたいと思ってもらえるよう魅力的なまちであることが求められますので、よりよい下野市のために取組を進めているところでもあります。

(杉原会長)

あいさつにおいて、町が合併し市になり10年が経過し、住民の要望が変わってきているように感じるとありましたが、具体的にはどのような部分でしょうか。また、市民の方が、市になったという実感を持たれるのはどこだと思いますか。例えば、私は下野市民ではありませんが、下野市を訪れた際に新庁舎を目にします。新庁舎というのは新しく市ができたということ象徴する建物であると思います。ヨーロッパでは、市庁舎の周りというのは、週末にはとても賑わい、市庁舎を中心に市が発展していきます。これは、行政側が意識的に行うのではなく、自然と市民が集まり発展していくものです。下野市においても、新たな庁舎を中心に、さらに市が発展していくことは、人口の増加にも繋がりますので、そのようなことも踏まえて施策を展開していくことが求められると考えます。

(広瀬市長)

町から市に変わったということは、職員よりも住民の皆様の方が早い段階で感じていたのではないかと考えています。学校を例に挙げますと、今まではそれぞれの町を単位に考えていましたが、合併をしたことによって、市という広い地域全体でどのようなすべきかを考えるようになった時、市として一体感が生まれてきたと感じました。市としての一体感を大切にしつつ、さらに発展するまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。また、新庁舎は、市としてのシンボルとなっていかなければなりません。同時に、市民サービス向上や職員の資質向上にも取り組んでいかなければなりません。庁舎までの距離が離れてしまい不便になるのではないかと考えている方もいらっしゃるようですが、新庁舎ができることによって、ワン・ストップサービスの提供が実現され、市民サービスの向上が図られるものと考えています。また、市としての一体感のさらなる醸成のために、市民が集う様々なイベントが開催できればと考えています。

(飯島委員)

最近、下野市でも有料老人ホームが初めて開設されたようです。下野市においても高齢化が進む中で、有料老人ホームに対する需要はとて高いと思います。有料老人ホームの事業所を誘致するような考えはあるのでし

ようか。

(広瀬市長) 必要な施設であるという認識はございます。地域で生まれ育ち、ともに支え合いながら生涯にわたり生活していけるまちづくりを進めていきたいという思いがございますので、可能な限り住み慣れた地域で生活できるように、年を重ねていただきたいですし、行政としても支援をしていきたいと思っております。その中で、老人ホームへの入所をひとつの選択肢として希望される方もいらっしゃると思いますので、本市の状況を踏まえて施設が必要になることも想定されますが、現時点では、積極的に誘致するまでの施策は検討しておりません。

(関口委員) 下野市の課題として高齢者の増加が挙げられますが、優れた医療環境を活用し、健康で長生きできる環境を充実させていくことが強く求められていると考えます。健康づくりの事業は、個別には取り組んでいるようですが、総合的に取り組んでいるのでしょうか。小山市では、「いきいきふれあい事業」を展開しており、「いきいきふれあいセンター」に65歳以上の方に集まっていたいただき、仲間と交流を行うことで閉じこもりを予防しているようです。私は、語り部のボランティアをしているので、呼ばれてお手伝いをしたことがあるんですが、皆さんとても元気でした。市の歌を歌ったり、体操をしたり、講座が開かれたりしています。下野市にもサロンがありますが、内容や規模が異なりますので、そのような取組も必要ではないでしょうか。ボランティア団体の取組だけではなく、市がリーダーシップを発揮して、健康寿命延伸のための取組を積極的に進める必要があると思います。ゆうゆう館などの市の施設を活用して、体操教室などを開催していただき、健康づくりを進めていただきたいと思っております。

空き家対策について、以前お聞きした際には調査中との回答がありましたが、現在の状況はどうなっているのでしょうか。

本委員会では、毎年報告書を提出していますが、どのように反映されているのでしょうか。

(広瀬市長) 高齢者の人口は増えていますが、県内ですと下野市は比較的平均年齢が若い状況にあります。下野市においても高齢化が進んでいるということですが、他自治体ではさらに早いペースで高齢化が進んでいますので、それに対応するため様々な施策を展開しております。他自治体が実施している良い事例は、参考にし、下野市として必要な施策を展開していきたいと考えています。

空き家対策については、調査が終わり、次の段階に進めております。

委員会に依頼しておりますのは、PDCAサイクルのチェックの部分と考えています。行政では、委員会の報告を受け、アクションで事業の見直し、プランで計画、ドゥで遂行となり、これを何度も繰り返すことによって足りない部分を補っていき、よりよい施策を展開していくこととなります。実行が遅い、効果が感じられないというご指摘もあるかと思いますが、様々なご意見を受けて事業の見直し等を検討していきますので、よろしく願いいたします。

- (関口委員) 例えば、テーマを決めて、人を集めて、徹底的に討論を行い、報告書などをとりまとめると、有用なアイデアが出てくるのではないのでしょうか。そのようなことを定期的に行えば、市民の参画がさらに進むと思います。
- (広瀬市長) 市の施策に対して関心を持っていただいている市民が多くいらっしゃることは、日頃から感謝しております。いきいきランチトークでは、様々な団体と直接意見交換をさせていただいております。市の課題解決のため、色々な立場の方の意見を取り入れるということは、今後一層重要になってくると思います。そのような仕組みをどのように作るのか、今後の課題になると思いますので、検討していきたいと思います。
- (飯野委員) 下野市は、合併が成功した市であると感じています。栃木県の中で、宇都宮市と小山市の間に位置し、交通の便もよく、もっと成長する可能性があると思っておりました。合併が成功し、県内でもモデルとなるような地域であると感じます。仕事が税理士ですので、市外の様々な企業を訪問する機会がありますが、事務所を下野市に構えていることをお話しすると、「良いまちですね」と言っていただきます。道の駅しもつけや新庁舎などについてお褒めの言葉をいただきますと、一市民として嬉しく思います。私自身も、やはり下野市は住みやすいと感じております。住みやすいという感覚を持つことは、市として成功しているのではないかと考えます。また、自治医大の周辺地域では、税理士の会員数が増加しております。これは、この地域に魅力を感じて事務所を開設しようという方が増えているのであると思います。
- 今年度の報告書をまとめた中で、特に重要だと感じた事業が、「地域ブランド支援事業」と「商工業振興事業」でした。下野市は発展はしていますが、都市と農村の融合に取り組むとともに、それらを魅力として発信していく必要があると考えます。
- まず、「地域ブランド支援事業」になります。関口委員の意見とは異なりますが、事業実施に向けた調査研究から市民が関わるのは困難な部分がありますので、その部分は行政が十分に調査研究し、実施することが望ましいと思います。実施された施策に対する評価については、私たち市民も一生懸命取り組みたいと思います。「地域ブランド支援事業」は、酒米や苺への支援を行っていますが、それ以上の農業支援策を調査検討、実施していく必要があるのではないかと思います。専門家を集めプロジェクトチームなどを組織し、さらなる事業展開を検討していただきたいと思います。
- また、「商工業振興事業」につきましては、人口を増加させるためにも、魅力ある仕事や雇用が必要になってくることから、重要な事業であると考えました。工業の誘致を進めながら、地元企業と大企業との橋渡しを進めていくことが求められていると思います。これについても、専門のプロジェクトチームなどを組織して、取り組むことが必要ではないかと思います。どちらの事業についても、専門家の知識も取り入れて、積極的に進めていくことが求められていると思います。現在の事業自体は取り組むべきですが、それ以上の取組を進めていただきたいと思います。

(水上委員)

有料老人ホームに関する意見となります。私の知り合いに、79歳で妻を亡くし、一人暮らしを始めた男性がおります。一人暮らしを始めた直後は、老人ホームに入って身の回りの世話をしてもらいたいと話していましたが、数年して再会した際には、一人暮らしを続けていたにも関わらずとても生き生きとされていました。これは、ボランティア活動を通じて地域の子ども達と関わり、小学校の授業参観などにも招待されていることが理由ということでした。下野市においても、高齢者と子どもが関わっていく仕組みが確立されればと思っております。

例えば、コミュニティセンターに、行政の教育分野の方と地域の方を繋ぐコーディネーターの役割を担う方を配置し、地域のリーダーとして活躍していただくことによって、地域と密着した活動の拠点となればと思います。コミュニティセンターでは、地域の高齢者の方が集まり、歌を歌ったり、体操をしたり、奉仕活動をしたりと自主的な活動をしています。あるコミュニティ会長の方は、地域の学校を訪れ、自主的に様々な取組を進めていますが、そのような取組をコミュニティに任せきりにするのではなく、行政がリーダーシップを発揮し、進めていただきたいと思っております。

また、「地域ブランド支援事業」についてですが、下野市では地域ごとのお祭りが開催されており、地域住民と地元の商工業者の方が関わりを持つきっかけとなり、地域の絆や繋がりを深めるための一助となっています。このようなお祭りを通じて、地域ブランドの地元定着が図られることが望ましいと思っておりますので、行政としても、そのようなお祭りに対して支援をしていただければと思います。大きな予算を使うのではなく、地域の繋がりを活用して、民間が自発的に活動するような仕組みがあれば、市の魅力発信が進んでいくと思っております。

(園部委員)

東京から料理人を招き、下野市の食材を用いて料理をしていただくというのは、とても良い取組だと思います。私が東京から転入してきた時のことを思い出しますと、駅の方の対応が丁寧であり、人がとても優しいと感じました。今の時代では、都会の便利さだけではなく、心の休まる環境も求められています。子どもを育てていても、下野市は恵まれた環境が整っていると感じました。新しいものを取り入れながら、地元の特産物をさらに活用していけば、都会でも注目されるものが生まれてくると思えました。

(中林委員)

先日、小学校の児童表彰に出る機会がありました。市内の小学6年生全員が、自分の得意な部分を表彰してもらえという制度ということですが、子ども達にとっては、卒業式と同じくらい貴重な体験であると感じました。子ども達一人一人がメダルと賞状をもらうという光景は、見ていて頼もしく感じました。あの子ども達は、一度市外に転出しても、下野市を故郷と思い、帰ってきてくれると感じました。市外から人を呼び込む施策も重要ですが、今ここで育てている子ども達を大切に、将来大人になった時に、下野市で住みたい、働きたいと思っていただく事が必要だと思います。素晴らしい下野市が、今後も続き、子ども達が住み続けたいと思う市であってほしいと感じました。

- (大木委員) 来年度の予算編成方針の中で、事務事業評価に基づく事業の選択と集中という項目がありましたので、行政評価市民評価の結果についても考慮していただきたいと思います。
- (杉原会長) 新庁舎のこととなります。私は出身が島根県で、幼少期に松江城によく遊びに行きましたが、近年の変化としまして、表からだけではなく、後ろからも観賞できるように整備され、全方位から見て楽しめるようになっております。役所の庁舎というのは表からの見た目だけを気にしがちですが、せっかくの新庁舎ですので松江城と同様に様々な方向から鑑賞できるように整備していただくとともに、職員の方には市民の皆様の様々な意見に対して丁寧に対応するようにしていただきたいと思います。
- (水上委員) 報告書の「防犯対策事業」においても書かせていただきましたが、新庁舎については、駐車場への防犯カメラの設置など防犯対策を十分に行っていたきたいと思います。
- (杉原会長) 委員の皆様から報告書の内容だけではなく、日頃から考えていることも意見させていただきました。市長からご意見ありますでしょうか。
- (広瀬市長) 委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。市のさらなる発展のために、委員の皆様と共に歩んでいきたいと思います。
- まず、新庁舎の防犯対策ですが、公共施設において犯罪が発生するということは絶対に防がなければならないので、駐車場等への防犯カメラは設置する予定となっております。
- 今の時代には心の休まる環境が求められているということでしたが、私どもとしても、市民の皆様が住みよいと感じるまちを築いていきたいと考えております。合併から10年が経過し、一体感の醸成が図られ、住みよいまちとして発展してきたと考えています。また、消防において連携している上三川町、壬生町との1市2町ですと、自治医科大学付属病院、獨協医科大学病院という優れた医療機関を有しており、心の休まる環境を形成するのひとつの要因になっていると考えます。
- 児童表彰については、市内12校の6年生、今年は599名を表彰させていただきました。これは、市長の重要な仕事であり、代理で行うことが出来ないものであると考えております。一人一人を表彰する中で考えますが、鮭の子どもようになってほしいということです。一度は外の環境を経験して、外からの目線で下野市の良さというものを考えていただいた結果、下野市での暮らしを希望し、Uターンなどで、下野市に戻ってきて、生活、結婚、子育てをしていただければと思っています。
- 同時に、市外からの転入者も増やしていかなければなりません。道の駅しもつけで、大宮駅などを訪れ、野菜等販売を行い、下野市はこんな地域ということプロモーションしたり、若手農家の方に、都内でマルシェイベントを開催していただいています。
- また、東京の一流料理人を招き、地元の野菜で料理していただくとともに、生産者との交流を通じて、よりおいしく召し上がっていただくためにはどうすれば良いかということの研究をしています。下野市の位置、規模だから



こそ、生産者と料理人の交流ができるのだと考えています。そういった下野市の特徴を最大限生かして、様々な方との交流を行い、下野市の魅力をさらに高めていきたいと思ひます。

本日の意見をしっかりと受け止めて、また、近隣の同規模の市町の良い施策を参考にし、さらなるステップアップにつなげていきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

(杉原会長) それでは意見交換を終了とさせていただきます。

## ○その他

(杉原会長) 委員の皆様からご意見等ありますでしょうか。また、事務局からありますでしょうか。

(事務局) 今後の日程につきましてご連絡いたします。第8回委員会は2月10日に予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

(杉原会長) 委員からご意見等ございますか。意見等ないようですので、議事は終了といたします。

## ○閉会

(事務局) 以上をもちまして、第7回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員